

学科長挨拶

生命科学科 10 周年に寄せて

生命科学科長 康 東天



生命科学科の学生そして卒業生の皆さん、10周年おめでとうございます。

九州大学医学部生命科学科は医学的素養がある生命科学者を育てるという、国内でも類を見ないコンセプトのもと発足した非常に特徴を持った学科です。そのため、その特徴を生かす教育システムの構築には多くの苦労があったようです。私は、續輝久教授、飛松 省三教授に続いての3代目の学科長で、先代の学科長が苦労して土台を築かれたおかげか、特段の苦労もなく過ごしています。それだけ、九州大学医学部生命科学科も学内的にも、学外的にも安定した評価と認知を受けた学科へと成長したということの証でもあります。

生命科学科は定員が12名と非常にこぢんまりとした学科です。そのせいか、あるいはそれだからこそか、非常に学生間の連帯が強いように思います。今回の生命科学科10周年記念行事も在學生と卒業生が密に連絡を取って組織した手作りの祝賀会です。中心となった3年生の全員がそれぞれ役割を担って努力しているさまを見守りながら、彼らが自分たちの学科へ強い愛着と愛情を持っていることを実感させられました。

先ほど教育する側が生命科学科の発展のために試行錯誤しながらこの学科を作り上げてきたかのように述べました。しかし、新しいコンセプトであるがゆえに、自身の方向性を定めるために一番戸惑い苦労したのは実は学生自身だったのではなかったかと言う思いも去来します。今年度末にはいよいよ一期生が初めて医学研究院博士課程を卒業します。本格的に研究の世界に本学科の真価が示され、また問われる新しい時代へと突入することになるわけです。その意味でも、この10周年は単に10年経ったと言うだけでなく、これまでの歩みを振り返り、そして未来を見据えるのに最適のタイムポイントです。

すべての卒業生と在學生が自己のスタイルを確立し、今後ますます成長し羽ばたいて行く事を心より信じ祈っています。